

高松市香南歴史民俗郷土館 共催展

主催：城山顕彰会

第20回

じょう

ざん

城山まつり

観覧無料

会期

令和7年

4月12日[土]

～5月18日[日]

場所

高松市香南歴史民俗郷土館

香川県高松市香南町由佐253番地1

なかやま じょうざん

じゅうがくしゃ

中山城山は、江戸時代後期の儒学者。

ほうれき

かがわぐんよこいむら

宝暦13年（1763）香川郡横井村

[現：高松市香南町横井]の生まれで、

讃岐で活躍しました。晩年には、

讃岐全土を歩き、讃岐の歴史や

旧跡を調べた『全讃史』を書き

あげました。郷土史研究に

欠かせない貴重な資料を残した人物です。

関連講演会「中山城山から藤澤東咳－泊園書院200年を祝して」

日時：令和7年4月26日（土）

午前10時～11時

講師：田山 泰三氏（泊園記念会委員）

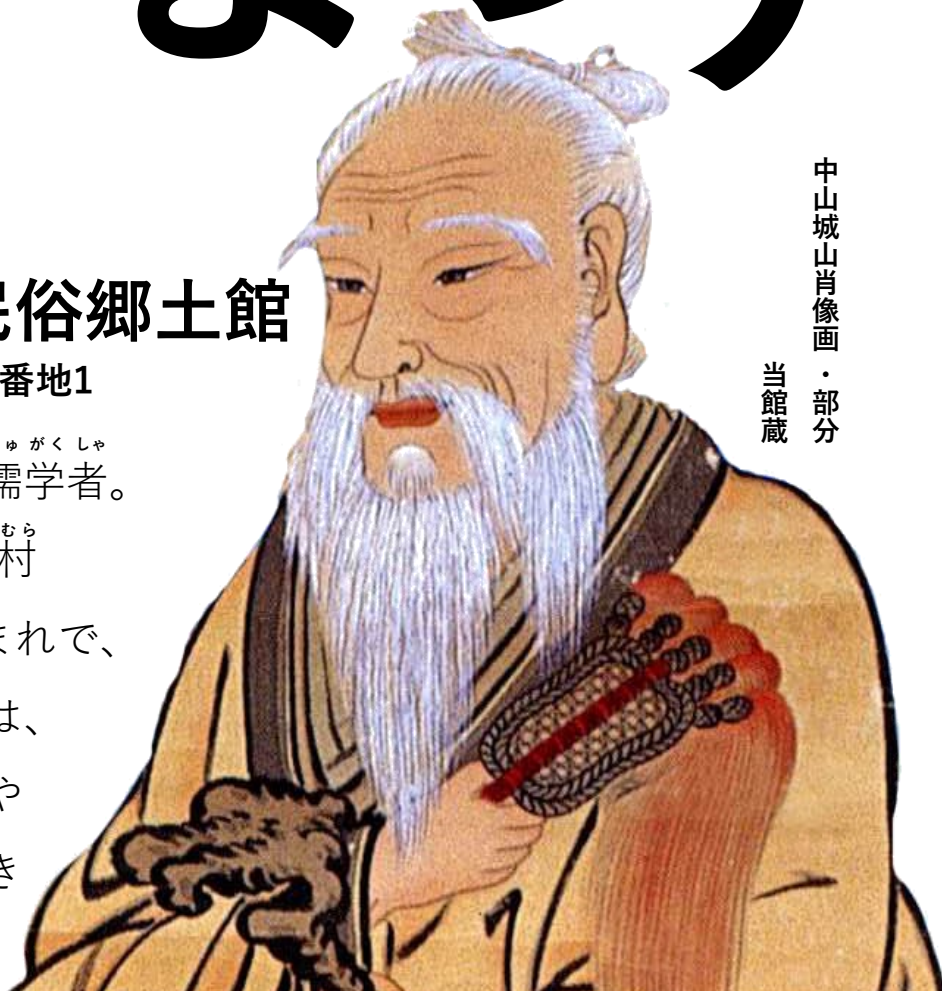
場所：香南歴史民俗郷土館 2階 第1研修室

定員：25名（要申込） 参加費：無料

申込み先：高松市香南歴史民俗郷土館

（電話：087-879-0717）

中山城山肖像画・部分
当館蔵



中山城山の門弟である藤澤東咳が大坂に泊園書院を創ったのが200年前。講演会では、藤澤東咳・南岳など泊園書院にゆかりのある人物を紹介します。

医者なかやまじょうざんの家に生まれた中山城山。祖父から儒学者じゅがくしゃになるよう願われ、三谷村みたにむら（現：高松市三谷町）の藤川東園ふじかわとうえんに学び、荻生徂徠おぎゅうそらいの「古文辞学」こぶんじがくを自らの道としました。高松城下に塾もんていを開いて古文辞学を教え、その門弟は四国をはじめ、中国、九州などから集まり、600人を超えるほどでした。
しかし、時代は寛政かんせい。高松藩では「朱子学」しゅしがくが中心であり、古文辞学派の城山はいせきは排斥されました。それでも自分の道を曲げなかった城山。
60歳で、讃岐全土をくまなく歩いて名所・旧所を調査し、讃岐の歴史や風土を明らかにした『全讃史』ぜんざんしを書きあげました。城山はこの『全讃史』を高松藩に献上し、藩主松平頼恕まつだいらよりひろにより士分の待遇が与えられました。
4月23日の城山の命日にあわせて開催するこの共催展では、城山直筆の書軸や城山の門弟などゆかりの人物の書軸など、高松市香南歴史民俗郷土館所蔵等の城山関係資料を展示します。
また、香南小学校・中学校の児童・生徒による城山の絵や書道作品も展示します。



高松市香南歴史民俗郷土館

〒761-1402 香川県高松市香南町由佐253番地1

開館時間：午前9時～午後5時

（入館は午後4時30分まで）

休館日：月曜日

（月曜日が祝休日の場合は翌平日）

電話：087-879-0717

郷土館HP⇒<http://www.city-takamatsu.kagawa.jp/ku/nanrekishi/index.html>

